

福岡県初・医療機関初

カンボジアに中古家具を寄付

当機構はSDGsに賛同し、持続可能な社会を実現するための取組みを推進しています。この度、その一環としてカンボジアに中古家具を寄付いたしましたので、ご報告いたします。

「もったいない」を解消したい

当機構は2023年7月、福岡国際総合健診センターと赤坂総合健診センターを統合・移転し、ガーデンシティ健診プラザを開設いたしました。移転プロジェクトを開始当初から、統合する2施設の家具を積極的に新施設に転用したとして

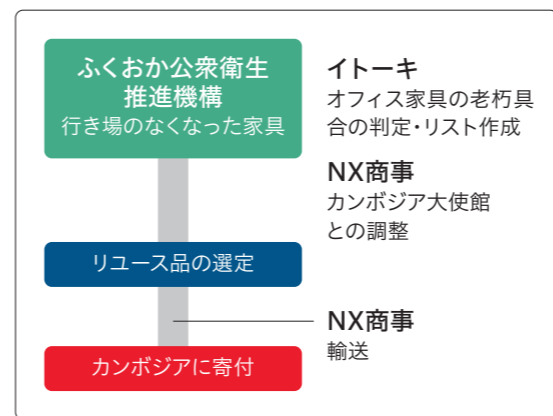


統合前の福岡国際総合健診センター(上)と赤坂総合健診センター。(下)ロビーのソファをはじめ、使える家具がたくさんありました。

も、相当な数の行き場のない家具が発生することが見込まれ、その中には購入間もないものも多く、有益な使い道を模索していました。

その時、移転プロジェクトで協力していた内装施工会社の方から、株式会社イトーキとNX商事株式会社の協働スキーム「中古オフィス家具海外寄付」のことを聞き、当機

構も協力させていただくことにいたしました。この協働スキームは、リニューアルや移転等で行き場のなくなった「まだ使用可能な家具」を寄付相手国であるカンボジアと調整のうえ先方が希望するものを寄付するもので、イトーキがオフィス家具の老朽具合の判定を、NX商事が環境



省およびカンボジア大使館との調整と輸送を担当しています。

カンボジアへ家具を

カンボジアの病院等では、医療用家具が不足しているとのことで、「中古オフィス家具海外寄付」において、これまで医療機関からの寄付はありませんでした。そこで、医療機関として初めての寄付となる今回は、ロビーソファや採血用チェア、診察ベッドをメインに、合計159点の家具をお送りさせていただきました。

余剰家具のカンボジアの病院等での活用は、現地医療のお役に立ってだけでなく、廃棄物の減量にも繋がります。日本においても社会貢献となります。今回の寄付は、「人びとの健康と環境保全のために」を基本理念とし、SDGsに賛同する当機構にとって、大変有意義な機会となりました。当機構は今後も、持続可能な社会を実現するための各種取組みを推進してまいります。



選ばれた家具は、大切にカンボジアに届けられました。

カンボジア大使館より感謝状をいただきました



今回のカンボジアへの医療用等家具の寄付に対して、2023年12月11日(月)、カンボジア王国大使館から、当機構理事長 本田 浩に感謝状が贈られました。左から)ケム ポリヴァット様(在日本カンボジア王国大使館 二等書記官(文化・教育担当))、当機構理事長 本田 浩、当機構 清水 崇史



公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構SDGs宣言

当機構は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

人びとの健康のために

人びとの健康を増進するための事業および啓発活動をおこない、公衆衛生の向上に貢献します。

【主な取組み】

- 「公益事業部門」「巡回健診部門」「施設健診部門・人間ドック部門」等による健康増進・啓発活動実施
「環境科学センター」を中心とした作業環境測定を実施

環境保全のために

労働者の安全と健康の確保を図ると共に環境保全に関わる活動をおこない、公衆衛生の向上に貢献します。

【主な取組み】

- 環境科学センターを中心とした「水質調査」「大気調査」「土壌調査」「騒音・振動調査」等を実施

人材育成に努めます

職員の声も取り入れた働き方改革に継続して取組み、全世代が働きやすく、生き生きと働ける職場づくりを実践してまいります。

【主な取組み】

- 働き方改革の実践(残業抑制、有給休暇の取得促進等)
女性活躍の推進
研修・技術力習得等支援、コンプライアンス教育等の実施

※当機構取組みの出発点として、SDGsと自社の取組みの関連付けを行いました。今後、マテリアリティ(優先課題)特定の掘り下げを行った上で、課題解決のための取組みの強化を進めていく所存です。